

第2回 環境ネットワーク会議

- 自らが情報の提供者になれる。情報の消費者から生産者へ。情報から物質・体験へ。
参加者を消費者から当事者に変える。
地域コミュニティを喪失した人々に居場所を提供する。

ネットワークの活動事例

目的：	持続可能な社会の構築
中期目標：	仲間を増やして、活動の後継者を育てる
短期目標：	団体間で協力した共同イベントを開催するなどして、多くの目にまずは触れる機会を増やす

持続可能な開発目標（外務省仮訳）

- 目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
- 目標 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
- 目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーを確保する
- 目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
- 目標 9. 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する
- 目標 11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる*
- 目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

*国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

第2回 環境ネットワーク会議

持続可能な活動のための人材獲得の必要性～国連 持続可能な開発目標を題材に～

2017年6月29日

近畿大学産業理工学部

教授 坂田裕輔

ysakata@fuk.kindai.ac.jp

人間は場所と空間の往復運動を行うものである

(広井、小林「コミュニティ」、勁草書房、2010年、p.162)

1. 分散化する関心をつなげる

Big Picture Activist

これからの時代はローカルでの活動が重要になってきます。各地域・コミュニティで課題はそれぞれ異なるから、一般的な解は通用しません。

けれども、それはそれぞれのローカルで孤立していていることを意味しません。わたしたちは、各地域で活動していると同時に、世界全体のネットワークと共通の問題意識でつながっているのです。

それは私たちの世界をよくしていきたいという思いです。そして、そういう胸痛の目的を達成するために、今自分がいる位置を常に意識できる人をBig Picture Activistと呼びたいと思います。

ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ（「懐かしい未来」、Local Futures 代表）

→ 国連 持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）は国連のBig Picture

2. 持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）

2016年から2030年を目標として、17のゴール、169のターゲットを持った取り組み目標で、2015年に国連で採択された。

ミレニアム发展目标と比較して、途上国問題にとどまらず、先進国にも関連が深い課題を含む、より包括的で詳細な目標を掲げている。

5つのP：人間（People）、豊かさ（Prosperity）、地球（Planet）、平和（Peace）、パートナーシップ（Partnership）

3. 活動目的と目標

公共のサービス化の時代に地域の市民団体はどうあるべきか。

情報爆発の時代。情報は簡単に取得できる。

リアルな勉強会・活動に参加する意義はなに？

市場と制度によって「よりよい専門的なサービス」を調達することに私たちは成功した。しかしそれは、お客様としての自己認識のみを育て、孤立化を招き、苦情という表現しか持たない大量の住民を生み出した。それは言い換えれば、わたしたち、この世界を変えることはできない、無力であるという自己認識を多くの人が持つに至っているということを意味する。

（西川正「あそびの生まれる場所」、ころから、2017年、p.73）